

# 北千葉道路ニュース

私たちは  
どうニュース



2010年7月1日発行  
千葉県北千葉道路建設事務所  
〒286-0017 成田市赤坂2-1-14  
TEL 0476-28-1411

編集・発行

vol.2

北千葉道路（一般国道464号）は、事業化されている印西市若萩から成田市大山までの13.5km区間の開通に向けて着実に整備を進めています。

この道路が整備されることにより、首都圏北部や県西地域と成田国際空港間とのアクセス強化が図られるとともに、沿線地域相互の交流・連携の促進、物流の効率化など地域の活性化に寄与します。

北千葉道路が地域の宝となるように、私たちは、未来を担う子どもたちと一緒に考え、暮らしを彩る豊かな環境を育みながら、道づくりを進めています。



## 地域と環境を育む北千葉道路



子どもたちが描いたビオトープの整備イメージ



### 子ども会議

印旛沼のすばらしい自然環境を守り、長く愛される道づくりを行うために、未来を担う地元の子供たちによる「北千葉道路子ども会議」を行っています。平成20年から始まったこの会議では、道路の建設現場、印旛沼の自然環境や流域の湧水などを見学し、北千葉道路や印旛沼に対する将来のあり方を話し合うワークショップを行っています。

また、子ども会議では、北千葉道路の調整池を利用したビオトープづくりを予定しており、在来生物の生息環境を再生し、生息域を広げる活動を行います。平成21年7月には、調整池予定箇所での動植物の観察や、ビオトープのイメージを描く活動を行いました。



### つながる! 北千葉道路

成田国際空港方面



千葉ニュータウン方面

北印旛沼を跨ぐ印旛沼渡河橋は、成田新高速鉄道の橋梁工事が完成し、開業に向けた準備が進められています。併設される北千葉道路は、上部工を架設するため、現在、工場において橋桁の製作を進めており、今年の秋頃には架設工事を開始します。



### ヨシ原の造成

成田新高速鉄道と北千葉道路が北印旛沼を渡河することにより、その周辺にすむ湿地性希少鳥類の生息に影響を与える可能性があることから、その代償措置として北須賀工区と大竹工区の2箇所（※中面地図参照）で新たなヨシ原の整備が行なっています。

大竹工区では、新たに造った池の一部をかつての印旛沼の底であった部分まで掘り込み、出てきた土を池に撒き出したところ、土に混ざっていた埋土種子が発芽し、オオササエビモ、ササハモ、トリゲモ、ヒロハノエビモなどの沈水植物が成育する様子が確認されました。また、造成された水路や池では、メダカやドジョウなども確認されています。



### ヨシ原の造成について新聞でも取り上げられました!!

#### ヨシ原8ヶ所造成終了

##### 北印旛沼 数年手入れ必要

大竹工区と北須賀工区に、ヨシ原の造成が完了しました。造成されたヨシ原は、数年間は定期的な手入れが必要と見られています。

造成されたヨシ原は、ヨシの生育が確認されています。また、水路や池には、メダカやドジョウなどの魚も確認されています。

### ヨシの植栽体験

千葉国道事務所の職場体験に参加した中学生や北千葉道路建設事務所の子供会議に参加した地元ボーイスカウトの子どもたちがヨシの植栽体験をしました。

よかったこと

- ヨシをうえたり、けんぴきょうで見たこと。
- 大きなよしのめがでていたのがあった。

さんねんだったこと

- 鳥を見たかったけど、見れなかったこと。
- いけにさかながいなかったから、さんねんでした。

きづいたこと

- ヨシの根がっぴだなどと思いました。
- しぜんのおいものがこんなにじぶんのちかくにあるのにきづいた。



#### 印旛沼周辺の生物

##### オオセッカ

ヨシ原に生息するヒタキ科の鳥、オオセッカが繁殖期に、チュクチュクチュクとさえずる。

#### 成田新高速鉄道事業と北千葉道路事業のパネル展示に“成田湯川駅”や“印旛沼渡河橋”の模型と発掘された埋蔵文化財が加わりリニューアルされました。どうぞお立ち寄り下さい。

成田新高速鉄道・北千葉道路 インフォメーションセンター

(成田市北須賀1622-2 印旛沼漁業協同組合内会議室) 木曜日休館